

4

認知症の受診と治療

適切なケアや治療の開始により、進行を遅らせたり、症状を軽減させられます。さまざまな制度・サービスなどの情報収集やその利用計画も、本人の意思を反映させるなど余裕を持って立てられます。



MCI(軽度認知障害)とは、認知症の一手手前の状態です

認知症は突然発症するわけではありません。MCIのうちに
対処すれば認知機能を回復・維持できることもあります。
**もの忘れなどが気になる人は、かかりつけ医などに相談
してみましょう。**

受診のポイント

ポイント 1

まずかかりつけ医に相談

本人や家族を日頃から知っているのはかかりつけ医です。遠慮せずに相談しましょう。必要に応じて専門医療機関を紹介してくれます。

- 早期段階での発見
- 専門医療機関の紹介
- 日常的な病気の治療や健康管理
- 本人や家族の不安の理解、アドバイス
- 介護サービス機関との連携
など

Point



かかりつけ医がない場合は、もの忘れ相談医
や地域包括支援センター(P34~38)に相談しま
しょう。



ポイント 2

気になることをまとめておく

診断には、本人や家族からの情報が大切です。
「何を伝えていいかわからない」「思うように伝えられなかった」とならないように、医師に伝えたい内容をまとめておき、受診の際に伝えましょう。
また、本人のことをよく知る身近な人の付き添いが大切です。
医師に伝えたい情報がまとまっている「**もの忘れ問診票(P39)**」をご活用ください。

ポイント 3

受診を上手にすすめる

本人も納得して受診することが望ましいですが、うまく受診につながらない時には、次のように工夫してみましょう。

■本人に自覚があるなら



■本人に自覚がないなら



Point



受診につなげることが難しいときは、かかりつけ医から勧めてもらったり、地域包括支援センター(P34)や認知症初期集中支援チーム(P35)へご相談ください。

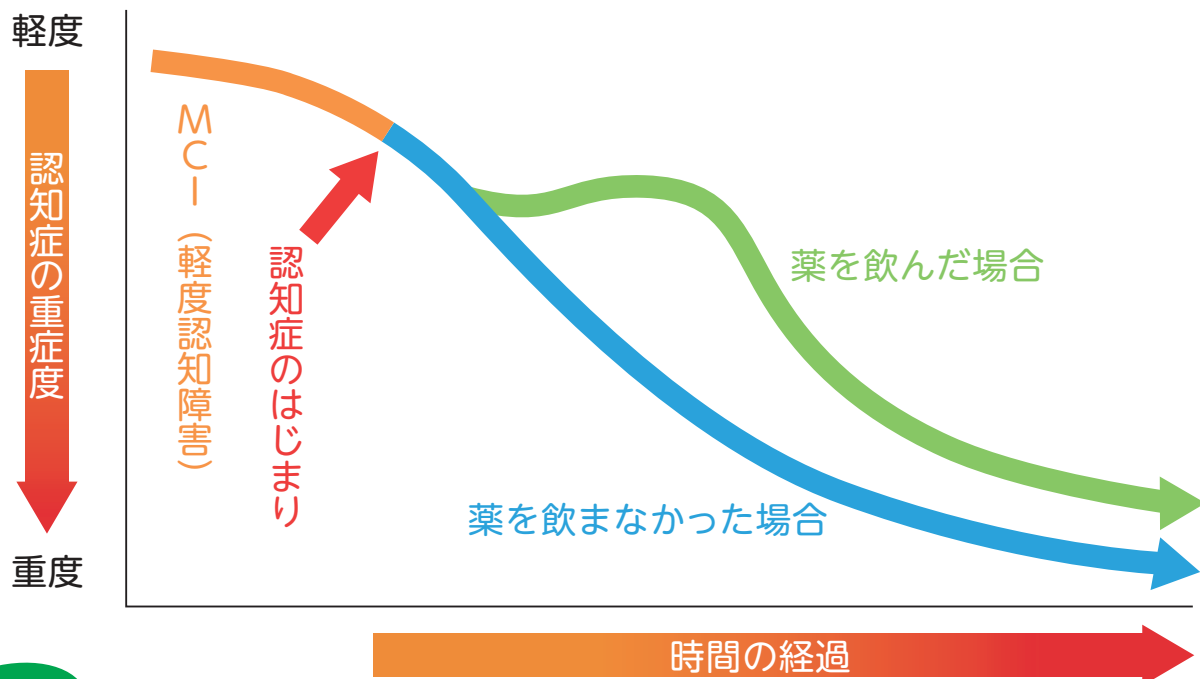
認知症と分かったら知っておきたいこと

本人も家族も、認知症を受け入れることは簡単ではありません。しかし、現在は薬とケアによって進行や症状を抑えたり、さまざまな支援・サービスにより、より良い生活を送ることができます。認知症の人への接し方の工夫やポイントも理解しておけば介護負担も軽減できます。

知っておきたいこと 1 薬による治療

薬による治療で、記憶などの認知機能の障害を改善したり、悪化を緩やかにします。不安や興奮、暴力などの症状にも薬が処方されることがあります。認知症の薬は錠剤のほか、ゼリータイプや貼るタイプなどがあります。

■薬による治療効果のイメージ



Point



効果には個人差があります。効果が感じられないから、あるいは効果が出たからといって、勝手に服用量を減らしたり、やめたりすることはせず、医師に相談しましょう。



お薬手帳

お薬手帳も
持ってきて
くださいね

かかりつけ薬局を持ちましょう

重複処方や危険な飲み合わせの確認や分からないことを気軽に相談できます。

認知症についても相談できる

「認知症対応薬局」の一覧はこちら▶



知っておきたいこと 2 リハビリによるケア

リハビリはできることを活かしたり、使われていない部分の活性化につながります。家族や仲間と一緒に楽しみながらできるリハビリを行うことで、その人の意外な得意分野が発見できたり、気持ちを安定させることも期待できます。

家での役割が日々のリハビリになります

家事や買い物、散歩などできることは今まで通り続けることがリハビリになります。役割があるということは気持ちの安定や、生きがいにもつながります。

お母さん、
ありがとう
助かるわ



■本人にあったリハビリをみつけましょう

STEP 1

振り返ってみる

昔からの趣味や旅行など、楽しかったこと



STEP 2

すすめてみる

日頃の会話を通じて興味が
ありそうなことをすすめる



STEP 3

試してみる

継続できそうなことを試してみる



脳のリハビリの例

●音楽療法

合唱したり、簡単な楽器を演奏したりすることで脳を活性化させるリハビリ。気持ちを落ち着かせるリラクゼーション効果もあります。



●回想法

子どものころ遊んだ道具や、楽しかった行事、流行したものなどについて思い出しながら話すことで脳を刺激するリハビリ。



●芸術療法

絵画、粘土細工、手芸などを行い、五感を使うことで脳を活性化させるリハビリ。

